

朔日峠の不法投棄ごみ回収量は12トンにも



この日、県道沿いでは、交通規制をしながら大型のクレーン車やユンボが動いていました。1トンパックが路上にずらりと並んだ姿を見て、参加者は怒りの声をあげていました。

すごいゴミでした。22日、上越各地から参加した100人ほどの人たちが県道柿崎牧線朔日峠地内の道路わきに捨てられたゴミを回収したところ、集めた量は約12トンにものぼりました。

ボラランテアで作業にあたった人の多くは杉林の中の急斜面を降り、小さなナイロン袋や1トンパックに入れてゴミを運び出しました。今回はユンボやクレーン車も使った大掛かりな作業となりましたが、機械力なしではこれほど運び出すことはできなかったでしょう。

捨てられたゴミは、苗箱、タイヤ、空き缶、電気用品、ベッドなどでもありました。「捨てるなゴミ、活かせば資源」という吉川町時代の不法投棄をやめるよう訴えた看板を拾ってきた人もありました。

斜面の土を少し掘っただけでも、あつと言う間に5キロ入れのナイロン袋はいっぱいになります。この日の作業で捨てられたゴミのどれくらい回収したことになるかわからないくらい、まだ大量に残っています。投げ捨てた人たちは、どんな思いでこれらのゴミを捨てたのか。

参加者のうち、3分の1は地元町内会など吉川区内の人たちでした。たいへんご苦労様でした。

オンブズパーソンがやってきます

市政に関する市民の皆さんからの苦情を公正な立場に立って調査を行い、簡易・迅速に処理するオンブズパーソン制度が上越市にあります。

ふだんは市民プラザで仕事をしています。このたび、吉川区に向かうことになりました。調査をして問題があれば、市にたいして意見表明、勧告、提言もしてくれまします。おおいに活用してください。相談は無料です。

吉川区にやって来るのは、5月15日（火）です。午前10時から午後3時まで、吉川コミュニティプラザ2階202会議室で受け付けています。

生ゴミ堆肥化容器購入補助復活

吉川町時代にあった生ゴミの堆肥化促進のための奨励金制度が4月から新市でスタートしました。これは日本共産党市議団が求めていたものです。

同制度の正式名称は「家庭用生ゴミ堆肥化容器購入奨励制度」。家庭での生ゴミの自家堆肥化をすすめる、ごみの発生を抑えるために、生ゴミ堆肥化容器を購入した人に対して、奨励金を交付する仕組みです。

対象となるのは、市内に住む人で、①購

入した堆肥化容器を設置し、脱臭対策等を講じながら適正かつ安全に生ゴミを処理できること、②堆肥化した生ゴミを環境衛生上支障がないよう利用できることが条件になっています。

奨励金の対象は、生ゴミ堆肥化容器（コンポスト容器、ボカシ専用容器等）及び脱臭剤、発酵促進剤（容器と併せて購入した場合に限る）です。電動生ゴミ処理機は対象となりませんでした。奨励金は購入費の2分の1以内（限度額2000円）。1世帯1基にかぎりあります。ご利用ください。

子どもと読み、語り合いたい本

命の大切さを訴えた一冊の本が吉川区内から誕生しました。上野實英さんの『いのちいしずえ』（法蔵館・1050円）です。

明治16年3月12日、尾神岳中腹で起きた雪崩事故を題材にした殉難物語は涙なしには読むことができません。4月23日は「子ども読書の日」でしたが、親子で読み、感想を語り合ってほしい物語です。

同著は、遊ランド、ゆつたりの郷、杜氏の郷などで販売されています。

